

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	名古屋大学
整理番号	A07
構想名	21世紀、Sustainableな世界を構築するアジアのハブ大学

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント)	
<p>本構想は、「高い国際競争力を持ち、魅力あるグローバルな Nagoya University」を目指し、21世紀の持続可能な世界を構築するアジアのハブ大学として、最先端の研究拠点を形成し、成長するアジアの大学を牽引し、学内の教育改革に取り組むことを目標として掲げている。</p> <p>これまでの段階において、計画に沿った取組を戦略的に実行し、研究力強化、グローバル化、教育強化における改革をバランス良く推進している。総長によって発表された中長期目標「NU MIRAI 2020」も、本構想の取組の継続的展開を実質的内容として掲げており、長期に渡って取組が継承されていくものと期待出来る。</p> <p>具体的には、国際的評価の向上に向けた計画の可視化、先端的研究強化策としての WPI-next、YLC の拡充、教育の国際化を目指すアジアサテライトキャンパスの設置、国際機構の設立、大学全体の教育改革としての学事暦の変更、GPA の実施、ナンバリングの拡充、英語による授業科目数の増加など、体系的かつ多彩な取組が意欲的に実施され、大学全体の底上げが進んでいるものと高く評価出来る。</p> <p>ジョイントディグリー・プログラムの展開をはじめとして、教育活動の国際化、研究の国際展開に向けた体制整備が着実に進められ、事業終了後の継続について積極的な検討が行われている点も評価に値する。</p> <p>今後は、先端的研究拠点としての国際的認知度の向上、アジアのハブ大学としての研究面・教育面の国際的連携の強化、その一環としてのジョイントディグリー・プログラムの更なる拡充や若手・女性・外国人研究者の増強等に一層拍車がかかることを期待したい。また、組織・体制・人事制度の改革、財政基盤の増強は構想の実現に不可欠な基盤であることから、立案されている工程が滞りなく推進していくことを期待する。</p>	